

如法寺木造三十三観音応現身像の概要について

1. 名称及び員数 如法寺木造三十三観音応現身像 21軀
2. 種 別 重要文化財(彫刻)
3. 所 有 者 金剛山如法寺
4. 製 作 年 代 南北朝時代末から室町時代初頭と考えられる
5. 作 者 不明
6. 法 量 別紙のとおり

7. 三十三観音応現身像とは

観音菩薩は救済すべきものの境遇や能力に応じて、それにふさわしい三十三身の姿に
応化して一切の生き物を救済するという。その姿を現したものが「三十三観音応現身像」で
あり、各地に祀られている三十三観音の原型とされる。

8. 構 造

桂材、一木造、玉眼嵌入、白土材彩色とする。

各像ともほぼ同じ構造で、基本的な構造は頭頂より頭体、足柄^{ほど}まで一材で彫出する。両
腕まで頭体材より彫出する例が多い。内刳^{うちぐり}は施さない。頭頂より両頬を通る線で面^{わり}を割
ぎ、頭頂と顎下で各1本の竹釘でとめる。台座は別材とし、両足裏の柄で像を立てている。
像の動きに応じて、一材からでは彫出が困難な部分に小材を矧ぎ足している。

なお、現存する21軀の像は技法や造形がほぼ等しいので、すべて同時期、同一仏師に
よって造立されたものと考えられる。

9. 墨書銘について

⑥小王身の像内頭部に墨書銘がある。湾曲した荒く刳られた面に記されていることもあ
り、字体が明確でなく、大半は判読できないが、その中に「至徳元年」と読める年号がある。
至徳元年は1384年であり、この年が造立の年を示すのかは断定できないが、製作技法な
どから想定される造立年代の範囲内に入ることから、「至徳元年」ころにこれらの像が造立
されたものと考えられる。

10. 保 存 状 態

表面彩色も造像当初のものとも考えられ、保存状態もよく、非常に貴重な像である。

11. そ の 他

三十三観音応現身像は福島県内では会津美里町の法用寺にあるものに次いで2例目、全国的にも数例しか確認されていない非常に貴重な像種である。

[参考]法用寺観音堂内三十三観音像

会津美里町指定重要文化財(彫刻)、明徳5年(1394)の造立、現在19軀が確認。

(別紙)

如法寺木造三十三観音応現身像

名 称	像高(cm)
① ぶつ 仏身	31.4
② びやくし ぶつ 辟支仏身	32.8
③ ぼんのう 梵王身	33.6
④ だいじざいてん 大自在天身	35.7
⑤ てんだいしょうぐん 天大將軍身	33.3
⑥ しょうおう 小王身	34.9
⑦ こじ 居士身	34.9
⑧ さいかん 宰官身	34.9
⑨ ばらもん 婆羅門身	33.5
⑩ びくに 比丘尼身	32.3
⑪ しゅこんごう 執金剛身	35.9
⑫ うばそく 優婆塞身	35.3
⑬ こじじょ 居士女身	35.7
⑭ ばらもんじょ 婆羅門女身	33.8
⑮ どうなん 童男身	33.5
⑯ りゅう 龍身	37.3
⑰ やしゃ 夜叉身	35.0
⑱ けんだつば 乾闥婆身	34.2
⑲ あしゅら 阿修羅身	38.0
⑳ かるら 迦楼羅身	34.7
㉑ きんなら 緊那羅身	33.6

参考 台座高2.4～4.3cm



① 仙身



② 辟支仙身



③ 梵王身



④ 大自在天身



⑤ 天大將軍身



⑥ 小王身



⑦ 居士身



⑧ 宰官身



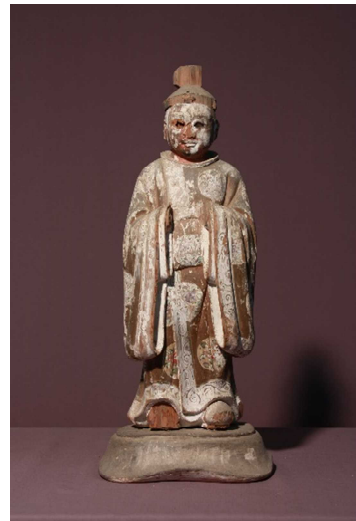
⑨ 婆羅門身



⑩比丘尼身



⑪執金剛身



⑫優婆塞身



⑬居士女身



⑭婆羅門女身



⑮童男身



⑯龍身



⑰夜叉身



⑱乾闥婆身



⑪阿修羅身



⑫迦樓羅身



⑬緊那羅身

⑥小王身像内頭部墨書銘



(赤外線写真)



□□□□

(和力)

□

□□□□□□

(此力) (八力)

□□□元年

(至徳力)